室蘭市議会　白鳥新道・幹線道路建設促進特別委員会
令和５年第１回市議会定例会　委員長報告（案）

ただいま議題となりました、白鳥新道及び幹線道路建設促進の件につきまして、本委員会における今日までの審査経過についてご報告いたします。

本件につきましては、令和３年第３回室蘭市議会臨時会において付託を受けて以来、道路行政などの情勢変化や本市の各種まちづくり計画などを踏まえ、審査と意見交換を行ってまいりました。

本年６月に開通２５周年を迎える白鳥大橋は、インフラツーリズムとしての主塔登頂（しゅとうとうちょう）クルーズが実施されるなど、近年は観光資源としても注目されており、ますます地域社会に定着し、住民生活にとってなくてはならない存在となっております。

しかし、祝津側本線については、接続する２期区間はいまだ着手されておらず、地上３０数メートルの高さで行きどまり状態にあり、橋へのアクセスはループ状のランプとなっており、白鳥大橋の機能が十分に発揮されているとは言いがたい状況が続いております。

このような中、平成２３年度に国の北海道開発予算に白鳥新道を含む道路網の調査費が計上され、白鳥新道２期に関する調査が行われて以降、毎年度調査が実施され、現状や課題の把握が行われているところであります。

令和２年度 及び 令和３年度につきましても、防災や地域医療、産業や日常生活などの観点から調査が実施され、本委員会において調査結果の報告を受け、白鳥新道２期区間の建設促進に向けた課題の分析やさらなる課題の把握を行ったところであります。

次に、本委員会の活動についてでありますが、令和３年１０月 及び 令和４年１０月には北海道開発局室蘭開発建設部へ赴き、白鳥新道２期区間に関する意見交換を行いました。

室蘭開発建設部からは、現在の社会インフラ整備は地域戦略が必要で、より具体的な説明が求められること、地域計画と道路整備を有機的に絡めた計画の必要性、本市における各種計画に合わせた白鳥新道２期区間の活用方策、官民一体となった活動の重要性などについてご意見をいただいたほか、今後

も将来のまちづくりに必要な調査等について、協力していきたいとのお話をいただきました。

なお、令和３年度、令和４年度におきましても、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、北海道開発局との意見交換会の開催、関係機関への要望活動などは見送ることとしたところであります。

令和２年３月２５日に都市計画マスタープランが策定され、本委員会任期中は、白鳥２期に関する議論を活発化させていくタイミングにふさわしい状況であったにも関わらず、新型コロナウイルス感染症により、委員会としての活動が難しい面もございましたが、今後におきましても、さらに市民と一丸となって白鳥新道２期区間の実現に対する熱意を伝えていくことが何より肝要であると考えます。

本委員会としての任期は、これで終了となりますが、理事者の皆様におかれましては、平成１０年の白鳥大橋開通時とは、社会・経済情勢、人口減少等、本市のみならず西胆振地域の状況も大きく変化していることに加え、国におけるインフラ整備の考え方も大きく変わってきておりますことから、今後もより一層、国・関係機関等との連携を図り、情報収集に努めていただきたい旨、申し添えさせていただきます。

以上、本委員会に付託されました、白鳥新道及び幹線道路建設促進の件につきましてご報告申し上げましたが、本委員会が設置されて以来、今日（こんにち）まで熱心に審査を尽くされました委員各位 並びに 理事者の皆様に心より感謝を申し上げ、報告といたします。